

3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・ 定量評価（5=100％以上 4=90～100％ 3=80～90％ 2=70～80％ 1=70％未満）

・ 総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	利用サービスの改善	・ 利用しやすいレイアウト変更等 ・ 調査相談（レファレンス）機能の向上 ・ SNSによる情報発信	入館者数 【40万人】 ※コロナ禍の影響を考慮	県職員専用ポータルサイトでの職員へのお知らせやツイッターでの情報発信に努めるとともに、資料の貸出サービスに際して利用者の利便性を高めるため手続きを簡素化するなどの改善を実施した。 また、利用者要望に応じて館内の利用環境改善のや利用ガイド等の改訂作業を進めている。	297,012人	達成率74% 評価（2） 70～80%	県内における新型コロナウイルス感染症の流行は落ち着きつつあり、秋には入館者数も復調傾向にあったが、12月から1月にかけての大雪により来館者が減少した。 新型コロナウイルス感染症の5類移行に備え、利用環境の改善に取り組んでいく。	D	入館者数は74%だが、貸出冊数は97%とほぼ目標達成できているのは、コロナ禍の中での新しい読書習慣にもきちんと対応できた証左であり、評価できる内容である。 （入館者数についてはコロナ禍や大雪等で図書館側がコントロールできない要素も多いため致し方ないと考える）
			貸出冊数 【45万冊】 ※コロナ禍の影響を考慮	資料費の削減に対応しながら、引き続き資料収集方針のもと効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各部局との連携展示を積極的に行い、資料の利用促進を図った。 併せて書架内展示や資料の見せ方の工夫など、魅力ある棚づくりに努めた。	435,724冊	達成率97% 評価（4） 90～100%	様々な取組により11月までの貸出冊数は順調に推移していたが、12月から1月にかけての大雪により来館者が減少し、その後の貸出冊数も伸び悩んだ。 例年、気候が安定する2、3月は来館者数が回復する傾向にあることから、引き続き利用促進に取り組んでいく。	B	今後は電子書籍サービスの早期導入により、若い世代や遠隔地の利用者の増加やサービスの充実につなげてもらいたい。 「入館者数」「個人貸出冊数」「サビエ資料の貸出冊数」の評価については要因もあろうが、図書館側からの働きかけの強化が必要と思う。
			レファレンス協同データベース登録件数 【40件】	利用者から寄せられた調査相談内容から、主に郷土に関するテーマなど、県民の調査研究活動に資すると思われる事例や関心が高いと思われる事例を選定してデータ登録し、インターネット上に一般公開する。	40件	達成率100% 評価（5） 100%以上	2月末に新規データを一般公開したことにより、一般に公開している登録データは680件から720件に増加した。 当館登録データの直近1年間におけるページビューは105,754回に上っており、県内外を問わず、新潟県に関する調査研究活動に寄与することができている。 次年度以降も引き続き、調査相談機能の向上に取り組んでいきたい。	A	目標通り行われている点は大いに評価できる。全国の図書館が参加しているが新潟県立図書館職員のレファレンス能力のPRにもなるので、目標値以上のコンテンツ掲載を目指していただきたい。720件の登録件数も県立図書館では健闘している件数であり、大いに評価できるものである。（ぜひ福井県立図書館の2,000件を目指していただきたい。）
			SNSへの記事掲載回数 【120回】	子ども向けイベントの情報や児童青少年向けコーナー等の若年層向けの情報や、周辺景観の様子をツイッターを活用して発信し、来館利用に繋がるように取り組んだ。	124回	達成率103% 評価（5） 100%以上	年度当初の目標を達成した。 フォロワー数も徐々に増えてきており、図書館をより身近に感じてもらえるツールとして、次年度以降も活用していきたい。 他館の事例等も参考にしつつ、図書館へ関心を持ってもらえる、来館のきっかけに繋がる取り組みを考えていきたい。	A	SNSの活用は頻繁に更新してもスルーされることも多いので120回の目標は適当であると考える。（協議会もしっかりPRされていて、いろいろな情報を提供していて良いと思う。） 今の時代、SNSでの各種情報発信が効果的であり、読書離れの若者向けの発信を積極的に行ってもらいたい。 コロナ禍などで、不登校や成人のひきこもりなど、鬱々とした人が増えているように思われる。読書によって暗い心が救われることもあると思う。日常の作業の多い中、大変とは思いますが、司書のお勧めの本や、新入荷の本の紹介をTwitterなどで炫いてみてはどうか。
	読書に困難のある県民へのサービスの充実	・ 新コーナー設置と資料の充実 ・ 利用者のニーズに合ったサービスの提供 ・ サビエ等サービスのPR	サビエ資料の貸出冊数 【240点】	視覚障害者情報センターと連携して実施した「市町村図書館職員向けの障害者サービス研修」では、オンライン型・訪問型の両方でサビエ活用の呼びかけを行った。 12月にギャラリーで「見て、聴いて、楽しむ！バリアフリー読書」展示および関連イベントを実施し、サビエをはじめとした障害者向け資料やサービスの普及・啓発に努めた。 サビエ資料を利用するための登録手続きについて、障害等により自力での申込書記入が困難な方に対し、電話による利用登録ができるよう制度を拡充した。	167点	達成率70% 評価（1） 70％未満	サビエの利用者は昨年度より若干名増加したものの、継続利用につながらない場合もあり、全体的な貸出冊数は伸びなかった。引き続き関連団体に向けたPR方法を検討していく。 また、次年度導入予定の電子書籍サービスについても、それぞれのニーズにあった資料を提供できるよう、より効果的な広報の方法を検討していきたい。	D	サビエ資料の貸出点数は利用者次第で数値が変わってくるので、達成率が低評価なのは仕方ないと考える。読書バリアフリー法の理念に沿って、利用者は少なくとも、こうした資料の充実を図っていただきたい。 「入館者数」「個人貸出冊数」「サビエ資料の貸出冊数」の評価については要因もあろうが、図書館側からの働きかけの強化が必要と思う。（再掲）
	こどもや若い世代の読書推進	・ コロナ対応を踏まえた子ども向けイベントの再開 ・ 高等学校への協力貸出（再掲）		12月から読み聞かせイベントを再開した。毎週金曜日の午前、午後の2回開催し、換気、消毒、検温等の感染症対策をとりながら、職員が絵本の読み聞かせと手遊びを行っている。会場であることも図書室の入室組数制限（5組まで）があるため、同じ内容を同日2回行うことで、参加者の分散を図り、安心して参加できるよう配慮している。 小学生対象のイベントとして、夏休みに調べ学習相談室、12月の障害者週間に点字の体験会を実施した。 県立学校への図書貸出サービスに関するチラシ(利用カード作成の案内を含む)、サービス利用マニュアルを作成し、5月末に県立高等学校等へ配布をした。（再掲）			読み聞かせイベントの再開が冬季になり、積雪等のためコロナ前ほどの参加者数には至っていないが、毎週数組ずつ参加がある。 小学生向けのイベントは、イベントを目的に来館し参加してくださった方もおられ、新規の利用にもつながった。 学校図書館司書との情報交換の機会が増え、学校現場での資料のニーズや活用方法、意見などを詳しく聞くことができるようになった。 今後も、より多くの学校と気軽に意見が言える関係性を築き、現場の意見をサービス改善や選書に役立てていきたい。（再掲）		読み聞かせイベントなど、ボランティア団体などと共に土日の実施が集客にもつながる。 親子連れが利用しやすい立地であり、駐車場も無料ということもありゆっくりと本や絵本を楽しむことが出来る環境なので、親子のイベントを読み聞かせだけに限らず図書館に向向いてみたくなる内容が必要と思う。図鑑を見ながらの押し花づくりや絵本カードなど。 読書の習慣、本への興味を持たせるため、こども図書室の活動の充実は大切なことだと思う。

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県立図書館職員 の能力の育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	職員全体研修会の開催【2回】	6月の開館日に、参加人数を分けて複数回行うやり方で、全体研修を実施した。 10月は蔵書点検による休館期間中に、全員参加での研修を実施した。 ＜実績＞ ・6月 電子書籍サービスについて ・10月 認知症の基礎知識と基本的対応について	2回	達成率100% 評価（5） 100%以上	年間計画を立て予定どおり2回実施できた。全員が同時に受講する機会を確保することが難しいため、分散型（複数回）の研修方法も実施した。 今後も研修内容や方法を工夫し、図書館サービスのレベルアップにつなげていきたい。	A	「職員の研修機会の充実」については、これまで通り職員の能力向上に努めてほしい。
			館内研修における職員の発表回数【10回】	オンライン研修等を活用してより多くの職員が研修を受講した。 研修成果を共有するため、各職員が受講した研修について報告し、質疑応答を行う伝達研修を実施した。 ＜実績＞ ①Japan Open Science Summit 2022 ②県内公共図書館総合部門研究集会 ③関東地区公共図書館研究発表大会 ④関東地区公共図書館研究発表大会 ⑤子ども読書レベルアップ研修 ⑥全国図書館大会 ⑦関東甲信越静区別研修 ⑧「がん情報ギフト」5周年記念フォーラム ⑨国立国会図書館障害者サービス担当職員向け講座 ⑩図書館等公衆送信サービス	10回	達成率100% 評価（5） 100%以上	図書館業務に関する知識やスキルを高め、サービス向上につなげるため、全体研修の機会に10名の職員が研修成果を発表した。 また、指標の実績には加算していないが、図書館の新サービスに関する研修を若手職員が講師となり行った。 今後も、受講者による伝達研修や図書館サービス研修の機会を設け、職員の能力向上を図っていきたい。	A	各職員が参加した研修内容を館内職員に報告する伝達研修の実施は、職員のスキルアップにつながり、大いに評価できるものである。 年間の研修受講予定は分かると思うので、計画的に目標達成に向けた取組を行うことが求められると考える。研修した内容を、報告する必要があると考える。 「職員の研修機会の充実」については、これまで通り職員の能力向上に努めてほしい。（再掲）
			職員の研修・会議等参加平均回数（全体研修を除く）【平均2回】	オンライン研修等を活用することによって、職員の受講機会を確保することができた。 ＜実績＞ ①5月24日 メディア研修会（Zoom操作）2名 ②5月31日 キャッシュレス決済導入研修3名□ ③6月10日 JAPAN OPEN SCHIENCE SUMIMIT(JOSS)2022 2名（オンライン） ④7月1日 新潟県公共図書館児童部門研究集会1名 ⑤7月7日 サビエ研修会1名（オンライン） ⑥7月22日～ 関東地区公共図書館協議会研究発表大会3名（オンデマンド） ⑦8月2日 障害者サ～ビス担当職員養成講座（基本編）1名（オンライン） ⑧8月18日、9月9日 レファレンス共同DB担当者研修会1名（オンライン） ⑨8月30日～9月1日 新任図書館長研修会1名（オンライン） ⑩8月30日 これからの公共図書館 ～学校連携、図書館のスマート化にむけて1名（オンライン） ⑪9月9日 子ども読書レベルアップ研修会1名（オンライン） ⑫9月27日 新潟県公共図書館中堅職員研修1名（オンライン） ⑬9月30日 図書館に向けた図書館等公衆送信サービス説明会1名（オンライン） ⑭10月4日 新潟県公共図書館総合部門研究集会2名（オンライン） ⑮10月6～7日 全国図書館大会群馬大会（オンライン）2名 ⑯10月11日～ リモートラーニングによるデジタル人材育成のための基礎研修1名 ⑰10月27日～全国公共図書館研究集会（サービス部門 総合・経営部門）3名 ⑱11月1日 図書館総合展・著作権フォーラム1名 ⑲11月17日 がん情報ギフト5周年記念フォーラム1名 ⑳11月17日 デジタルリテラシー修得（デジタル人材育成のための基礎研修）1名 ㉑11月25日 視覚障害者サービス研修基礎編（オンライン）2人 ㉒11月28～29日 国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座1名 ㉓11月29～12月2日 関東甲信越・静地区図書館地区別研修（茨城県立図書館）1名 ㉔11月30日 訟務研修会（訟務事務の基本・判例の読み方のコツ）1名 ㉕12月6～7日 障害者サービス担当職員向け講座1名 ㉖12月8日 国立国会図書館関西館開館20周年記念講演・シンポジウム1名 ㉗1月26日 令和4年度SDG s推進セミナー2名 ㉘3月8日 新潟県公共図書館専門職員研修会（オンライン）2人	平均2.2回	達成率111% 評価（5） 100%以上	オンライン研修等の活用によって、年度当初の目標を達成した。 研修・会議等のオンライン開催が増えたことで、全国規模や県外研修・会議等の参加機会が格段に得やすくなった。 次年度も、可能な限り参加機会を確保して、職員の育成と能力向上を図っていきたい。	A	平均2.2回と目標を上回っており、評価できる内容である。引き続き職員のスキルアップのために各種の研修に積極的に参加していただきたい。 職員の更なるスキルアップのための職員研修については、オンライン開催が非常に効果的であり、更なる職員の参加機会の増をお願いしたい。 年間の研修受講予定は分かると思うので、計画的に目標達成に向けた取組を行うことが求められると考える。研修した内容を、報告する必要があると考える。（再掲） 「職員の研修機会の充実」については、これまで通り職員の能力向上に努めてほしい。（再掲）